

# 調査の概要

## 1 調査の目的

県民の生活についての意識、県政の主要課題についての意識などを把握し、県政推進のための基礎的な資料とする。

## 2 調査の内容

- (1) 生活についての意識
- (2) 県の仕事に対する関心
- (3) 県民の地域活動への参加についての意識
- (4) 県民の暮らし満足度についての意識
- (5) 犯罪の発生と防止についての意識
- (6) 森林との共生についての意識
- (7) 県民の食育についての意識

## 3 調査の設計

- 調査地域 静岡県全域
- 調査対象 県内在住の満20歳以上の男女個人
- 標本数 2,000
- 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- 調査方法 調査員による面接調査
- 調査時期 平成18年7月28日～8月21日
- 調査機関 株式会社サーベイリサーチセンター静岡事務所

## 4 回収結果

	20歳以上の推定人口	標本数	回収率 (%)
東 部	1,013,357	663	468 (70.6)
中 部	994,221	653	535 (81.9)
西 部	1,053,077	684	524 (76.6)
全 県	3,060,655	2,000	1,527 (76.4)

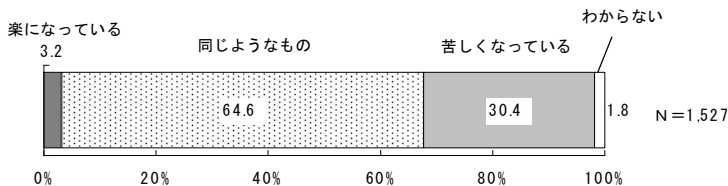
### この冊子のよみかた

- 1 結果は百分率で表示した。数表・グラフの百分率は小数第2位を、結果の概要説明文では小数第1位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
- 2 回答結果は1,527を100%として示した。なお一部の方に対する質問では、質問該当者を100%とするのを原則とした。
- 3 質問の末尾に(M. A.)とあるのは、1人の対象者に2つ以上の回答を認めたもので、その百分率の合計は100%を超える場合がある。

**Q1** お宅の暮らし向きは、去年の今頃とくらべてどうでしょうか。楽になっていますか、苦しくなっていますか、同じようなものですか。

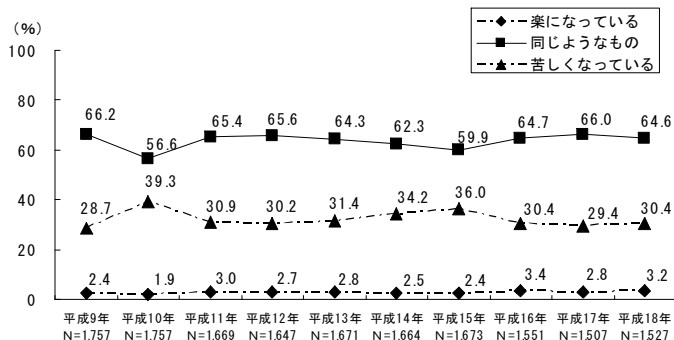
**全 体**

●65%が「同じようなもの」と回答している。  
「苦しくなっている」は30%と、ほぼ3人に1人の割合となっている。



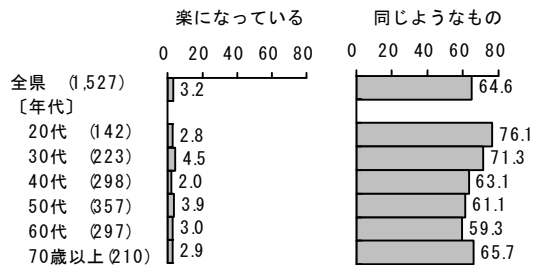
**経 年 比 較**

●平成12年度から15年までは、「苦しくなっている」は増加傾向であったが、平成16年度から減少傾向に転じた。しかしながら本年度は、前年度よりも1ポイント増加となっている。  
一方、「楽になっている」は平成16年度から上昇傾向にあり、本年度は前年度より0.4ポイント増加した。



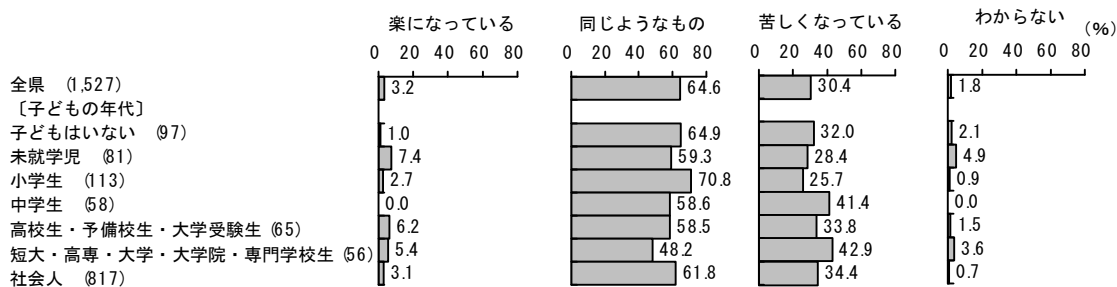
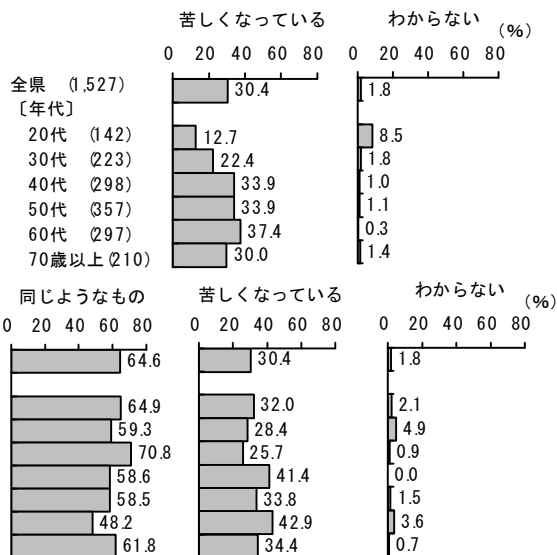
**年 代 別**

●「苦しくなっている」と回答している人は、20代、30代は低めであるが、年代が上がるほど上昇する傾向にある。特に60代では、4割弱の人が、「苦しくなっている」と回答をしている。



**子どもの世代別**

●「苦しくなっている」と回答している人の子どもの世代は、短大・高専・大学・大学院・専門学校生及び中学生が特に高くなっている。「同じようなもの」では、小学生が最も高く、71%となっている。



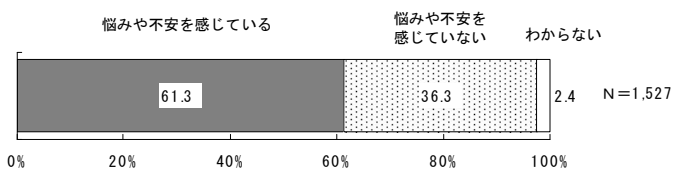
# 日常生活の悩みや不安 —— 「悩みや不安を感じている」人が61%

**Q2** あなたは日常生活の中で、悩みや不安を感じていますか。それとも別に不安は感じていませんか。

**SQ** 〔回答票1〕 悩みや不安に思っていることは、どのようなことですか。この中からいくつでもあげてください。(M.A.)

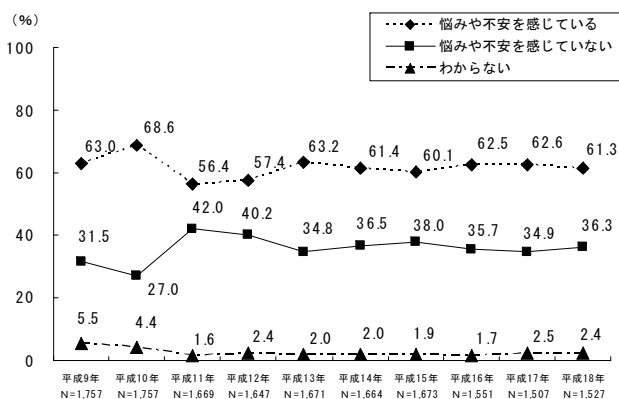
## 全 体

●日常生活の中で「悩みや不安を感じている」人は、6割以上を占めている。



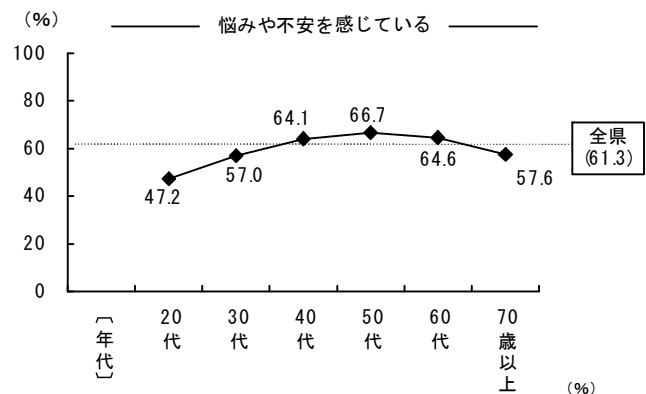
## 経 年 比 較

● 「悩みや不安を感じている」人、「感じていない」人の割合は、平成13年度以降は、共にほぼ横ばいで推移している。本年度は、前年度と比較して「悩みや不安を感じている」人は1ポイントの減少、「感じていない」人は1.4ポイントの増加となっている。



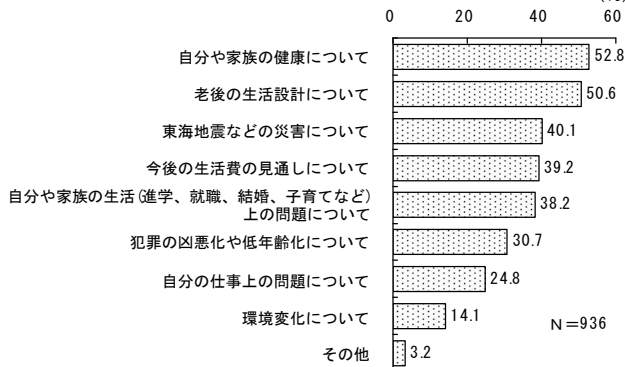
## 年 代 別

● 「悩みや不安を感じている」人の割合は、50代をピークとして、40代、60代において高めとなっている。



## SQ 悩みや不安の内容

●日常生活の中で「悩みや不安を感じている」と回答した人に、その内容についてたずねたところ、「自分や家族の健康について」が53%で最も高く、以下、「老後の生活設計について」、「東海地震などの災害について」、「今後の生活費の見通しについて」、「自分や家族の生活上の問題について」、「自分の仕事上の問題について」の順になっている。

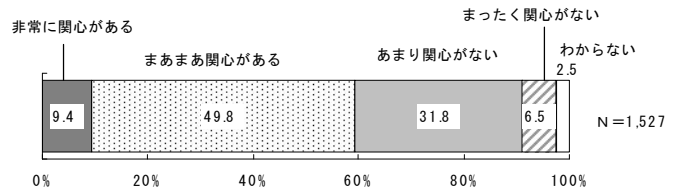


# 県政への関心度 —— 県政に「関心を持っている」人は59%

- Q3** 〔回答票2〕あなたは県の政治や行政にどの程度関心がありますか。この中ではどうでしょうか。
- SQ1** 〔回答票3〕県政に関心がある理由をこの中から1つだけあげてください。
- SQ2** 〔回答票4〕県政に関心がない理由をこの中から1つだけあげてください。

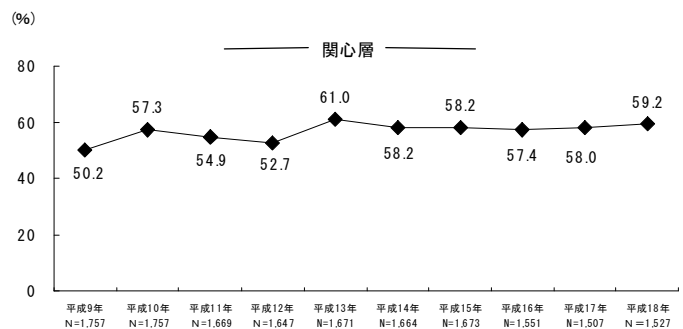
## 全 体

- 「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせて59%の人が県政に関心があると回答している。



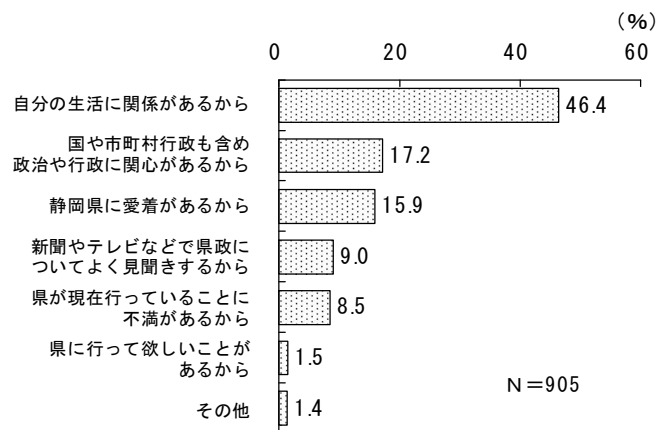
## 経 年 比 較

- 県政に関心を持っている人の合計は、平成13年度に一度6割に達したものの、その後は50%台で、横ばいで推移している。本年度は前年度よりも1ポイント増加した。



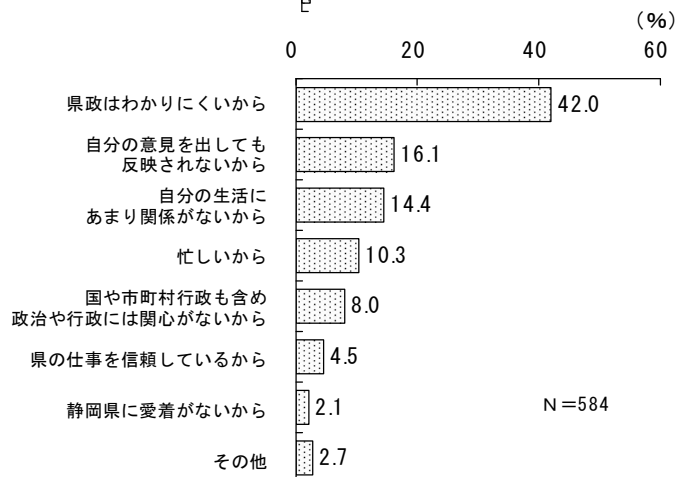
## SQ1 関心がある理由

- 「自分の生活に関係があるから」が46%で最も高く、以下、「国や市町村行政も含め政治や行政に関心があるから」、「静岡県に愛着があるから」の順となっている。



## SQ2 関心がない理由

- 「県政はわかりにくいから」が42%と最も高い。以下、「自分の意見を出しても反映されないから」、「自分の生活にあまり関係がないから」の順となっている。



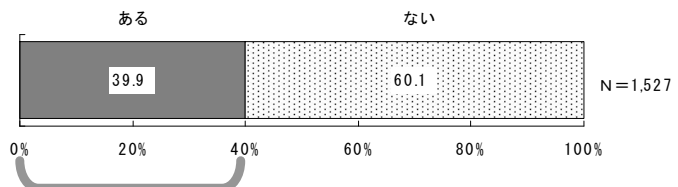
# 県への意見や要望、不満

——意見や要望、不満が「ある」人は40%そのうち県に伝えた人は8%

**Q4** あなたはこの1年間に県の仕事について、意見や要望を持ったり、不満を感じたことがありますか。  
**SQ1** それでは、そのことを県に伝えましたか。  
**SQ2** 〔回答票5〕意見や要望及び不満があっても、県に伝えなかった主な理由をこの中から1つだけあげてください。

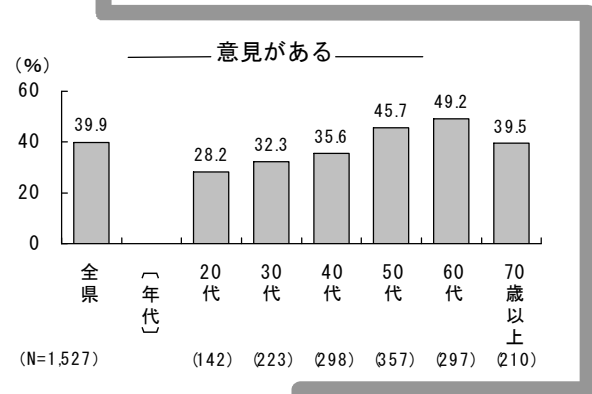
## 全 体

●県の仕事について、意見や要望及び不満が「ある」と回答した人は、40%となっている。



## 年 代 別

●意見や要望、不満が「ある」人の割合は、50代から60代の中高年代で高く、特に60代では約半数を占めている。

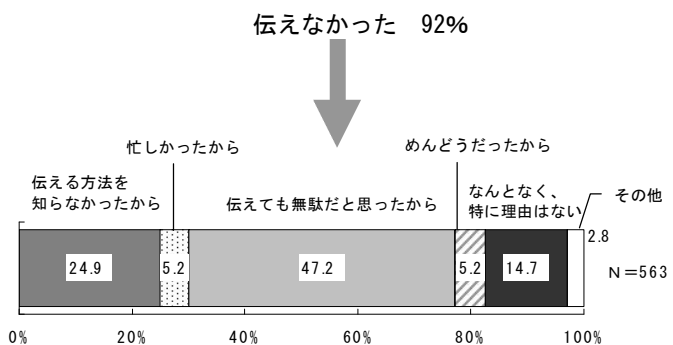
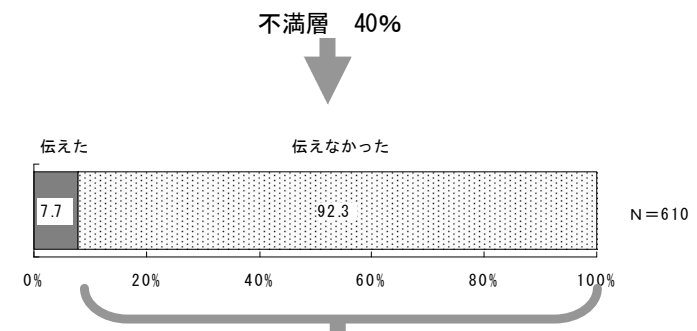


## SQ1 伝達の有無

●意見や要望、不満が「ある」人のうち、県に伝えた人は8%にとどまっている。

## SQ2 伝達しなかった理由

●県の仕事について意見や要望を持ったり、不満を感じたことが「ある」人のうち、そのことを県に「伝えなかった」人にその理由を聞いたところ、「伝えても無駄だと思ったから」が、47%で最も高くなっている。ついで「伝える方法を知らなかったから」が25%となっている。



# 県への意見や要望を反映させる手段

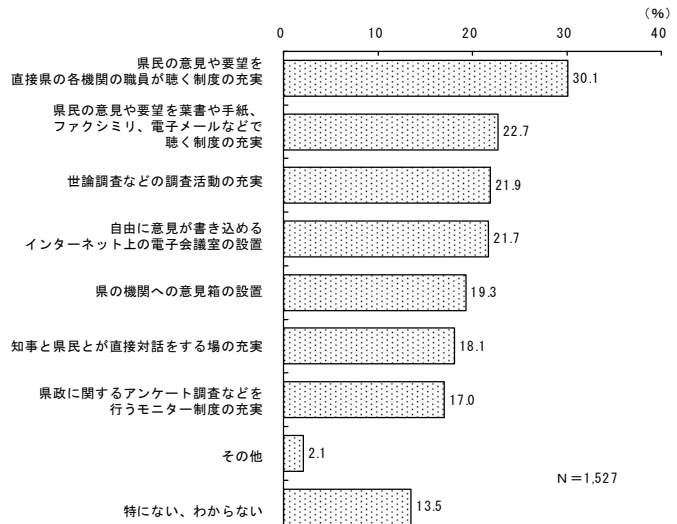
——「県民の意見や要望を直接県の各機関の職員が聴く制度の充実」が30%で最も高い

Q5

〔回答票6〕あなたの意見や要望を県政に反映させるために、どのようなことを充実させてほしいですか。この中から2つまであげてください。(M.A.)

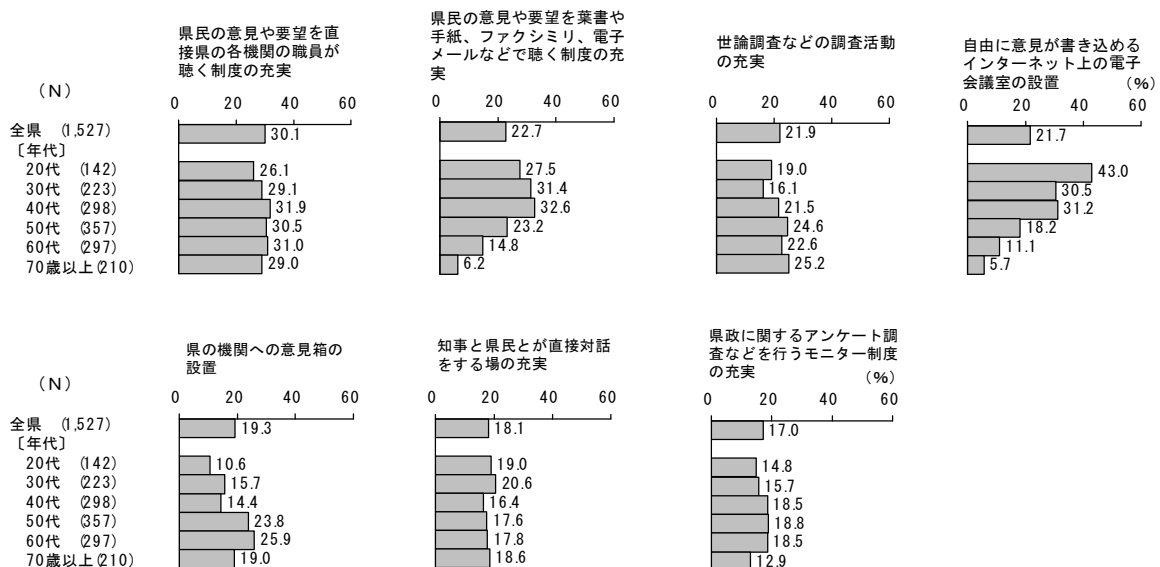
## 全 体

- 「県民の意見や要望を直接県の各機関の職員が聴く制度の充実」が30%で最も高く、以下、「県民の意見や要望を葉書や手紙、ファクシミリ、電子メールなどで聴く制度の充実」、「世論調査などの調査活動の充実」、「自由に意見が書き込めるインターネット上の電子会議室の設置」、「県の機関への意見箱の設置」、「知事と県民とが直接対話をする場の充実」、「県政に関するアンケート調査などを行うモニター制度の充実」の順となっている。



## 年 代 別

- 「自由に意見が書き込めるインターネット上の電子会議室の設置」は、20代で43%と、特に高くなっている。また、30代、40代で31%とやや高め割合となっているが、年代が上がるにつれて減少している。
- 一方、最も要望の高い「県民の意見や要望を直接県の各機関の職員が聴く制度の充実」は年代の差がほとんど見られない。



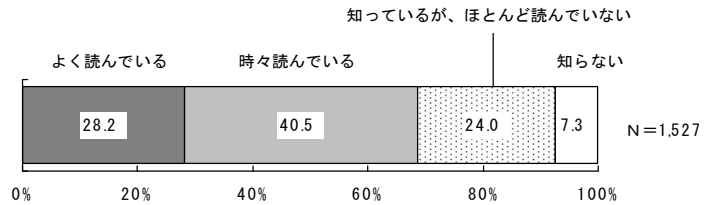
# 広報媒体の浸透度

——「県民だより」を読んでいる人は69%、「テレビコマーシャル」を見た人は79%

**Q6** [回答票7] あなたは、次にあげる県の広報を読んだり、見たり聞いたりしたことがありますか。それぞれについて1つだけお答えください。

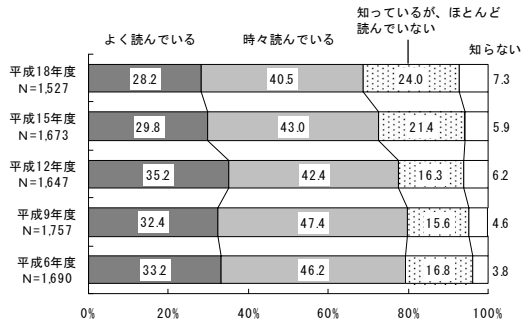
## 県民だより

- 「よく読んでいる」人が28%、「時々読んでいる」人が41%で、合わせると約7割が読んでいる。



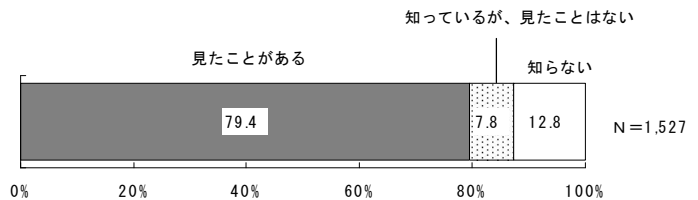
## 経年比較

- 読んでいる割合は年々減少している。本年度は、「よく読んでいる」は28%、「知っているがほとんど読んでいない」が24%となっている。



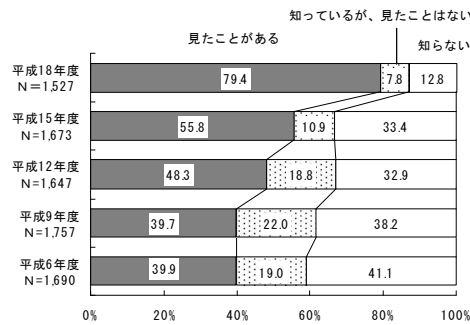
## テレビコマーシャル

- 「見たことがある」は79%で、「知らない」は13%になっており、「見たことがある」人が大半を占めている。



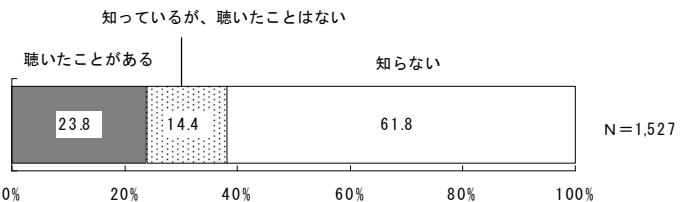
## 経年比較

- 「見たことがある」は平成12年度から年々増加し、本年度は8割近くとなっている。「知っているが、見たことはない」、「知らない」は、平成6年度以降の調査の中で、最も低くなっている。



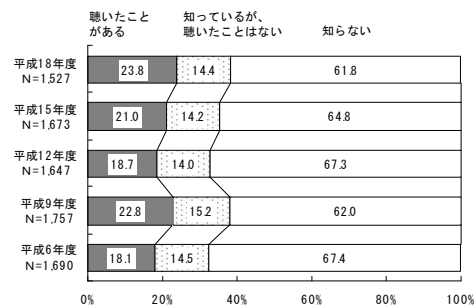
## ラジオ広報番組

- 「聴いたことがある」は24%、一方、「知らない」は62%となっている。



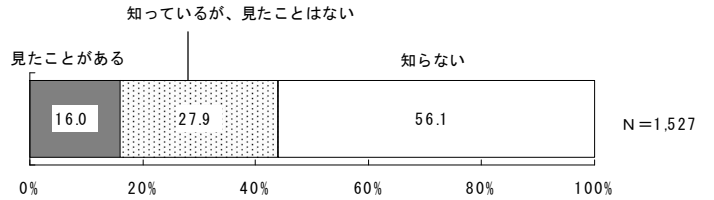
## 経年比較

- 「聴いたことがある」割合は、増減が繰り返されている。本年度は、平成6年度以降の調査の中で最も高くなっている。



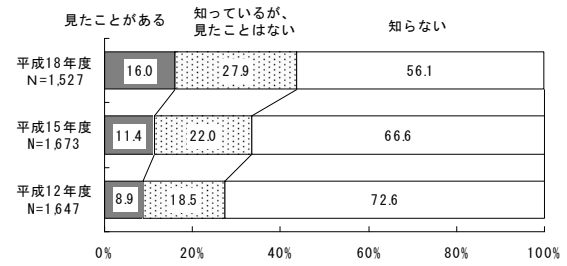
## 県のホームページ

- 「見たことがある」が16%、「知らない」が56%となっている。



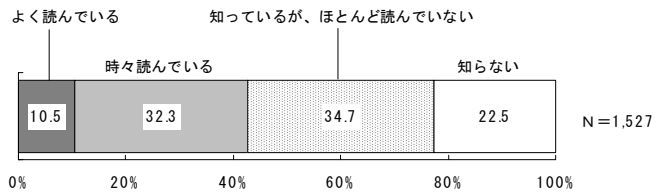
## 経年比較

- 「見たことがある」、「知っているが、見たことはない」は、共に年々増加し、合わせて44%となっており、平成15年度と比較すると、合わせて11ポイントの増加となっている。



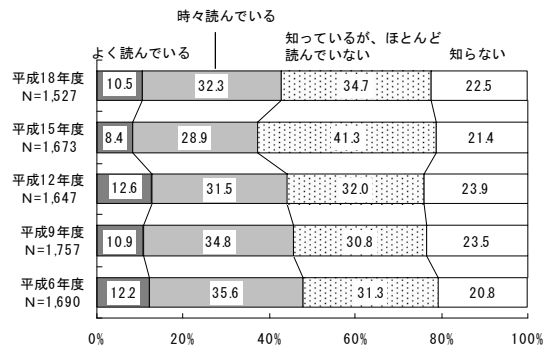
## 静岡県議会だより

- 「よく読んでいる」人が11%、「時々読んでいる」人が32%で、合わせると、約4割以上の方が読んでいる。



## 経年比較

- 平成6年度から平成15年度まで「よく読んでいる」と「時々読んでいる」を合わせた割合が減少傾向にあったが、本年度は、平成15年度の調査より6ポイント増加している。また、「知っているが、ほとんど読んでいない」割合が、平成15年度の調査より7ポイント減少している。





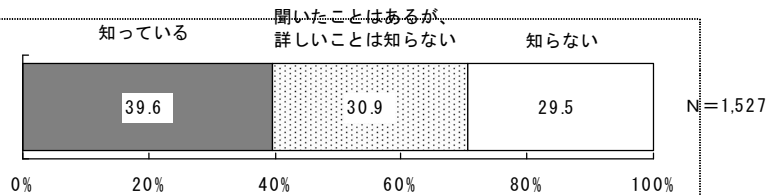
# 県の主要イベント認知度

——認知度は「ねんりんピック」が71%で最高、「第24回国民文化祭」が19%で最低

**Q7** [回答票8] 今後、県内で開催が予定されている大会や行事についてお聞きます。  
あなたは、これらの大会をご存知ですか。

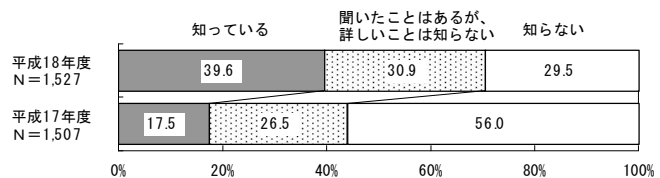
## ねんりんピック

- 「知っている」は40%で、「聞いたことはあるが、詳しいことは知らない」が31%と合わせて7割強が認知している。



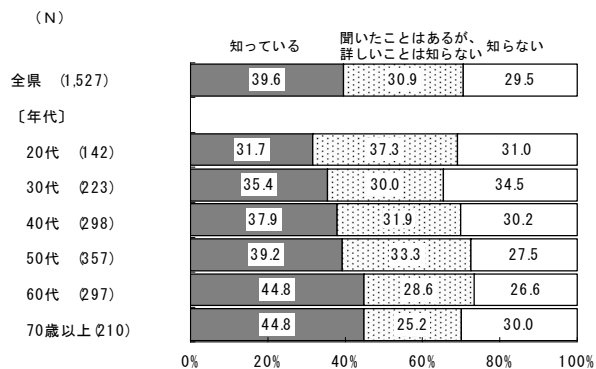
## 経年比較

- 前年度と比較してみると、「知っている」は22ポイント増加している。一方、「知らない」は27ポイント減少し、「知らない」人は3割以下となっている。



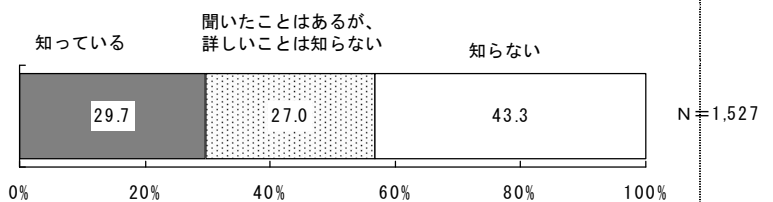
## 年代別

- 「知っている」割合は、年代が上がるにつれて高くなり、60代、70歳以上で45%と、最も高くなっている。



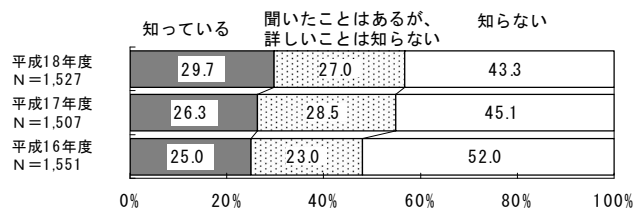
## 技能五輪国際大会

- 「知っている」が30%、「聞いたことがあるが、詳しいことは知らない」が27%で合わせて57%が認知している。



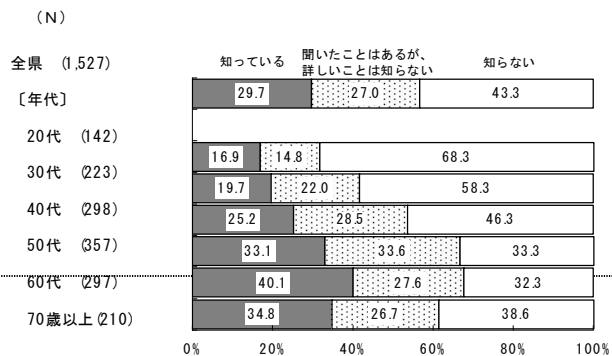
## 経年比較

- 「知っている」は増加傾向にあり、前年度と比較すると、3ポイントの増加となっている。



## 年代別

- 「知っている」割合は、年代が上がるにつれて高くなる傾向にあり、60代が40%と、最も高くなっている。



## 国際アビリンピック

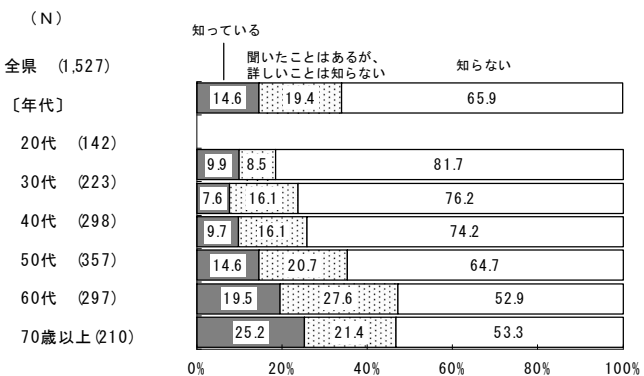
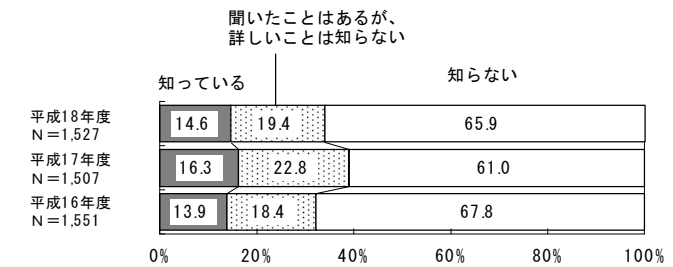
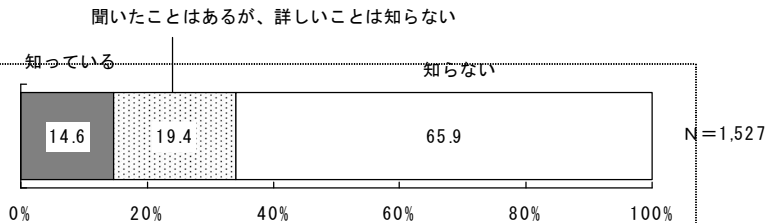
- 「知っている」割合は15%、「聞いたことはあるが、詳しいことは知らない」が20%で合わせて35%が認知している。

## 経年比較

- 平成16年度以降の推移でみると、「知っている」は、ほぼ横ばいに推移している。

## 年代別

- 「知っている」割合は、年代が上がるにつれて高くなり、70歳以上で4人に1人が「知っている」と回答している。



## 第24回国民文化祭

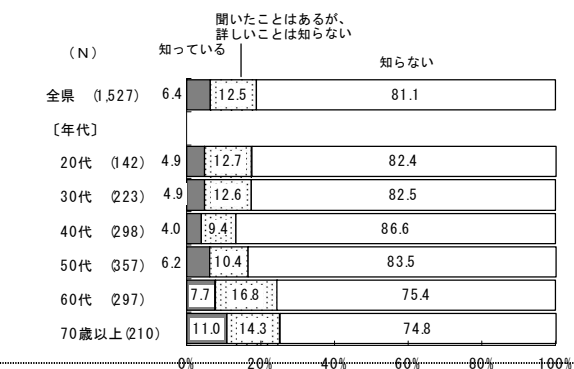
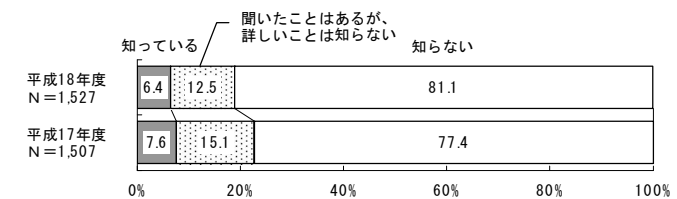
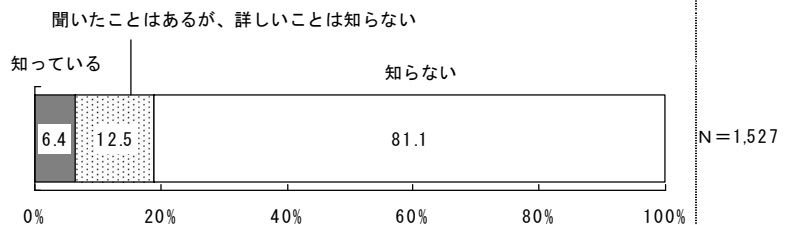
- 「知っている」割合が6%、「聞いたことはあるが、詳しいことは知らない」が13%で合わせて19%が認知している。

## 経年比較

- 前年度の調査と比べて、「知っている」は、1ポイント減少している。一方、「知らない」は、4ポイント増加している。

## 年代別

- 「知っている」割合は、70歳以上が11%で最も高く、その他の年代は1割未満となっている。「知らない」割合が最も高いのは40代で、9割弱が認知していないという結果となった。



# 県に望む施策 —— 「地震や風水害などの防災対策の推進」が42%

Q8

〔回答票 9〕あなたが、県に特に力を入れてほしいと考えることを、この中から5つまであげてください。(M.A.)

## 全 体

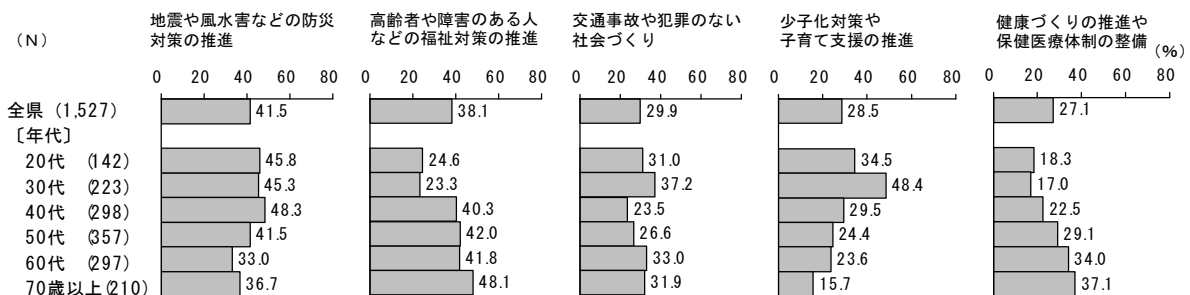
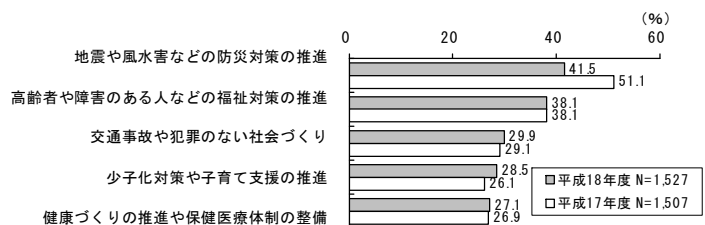
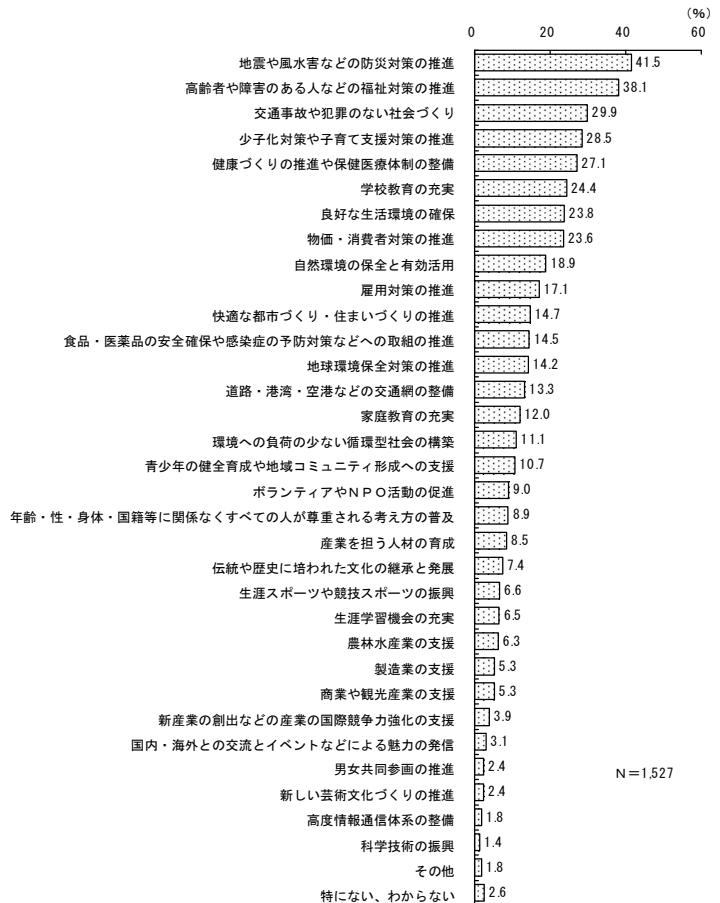
●「地震や風水害などの防災対策の推進」が42%で最も高くなっている。以下、「高齢者や障害のある人などの福祉対策の推進」、「交通事故や犯罪のない社会づくり」、「少子化対策や子育て支援対策の推進」、「健康づくりの推進や保健医療体制の整備」の順となっている。

## 経 年 比 較

●「地震や風水害などの防災対策の推進」は、前年度と同じく第1位であるが、前年度と比較して10ポイント減少している。一方、「少子化対策や子育て支援対策の推進」は2.4ポイント増加し、前年度の第6位から第4位に上昇した。

## 年 代 別

●「少子化対策や子育て支援対策の推進」は、30代で48%と他の世代よりも高くなっている。また、「高齢者や障害のある人などの福祉対策の推進」、「健康づくりの推進や保健医療体制の整備」では、おおむね年代が上がるほど割合が高くなっている。



# 県民の地域活動への参加についての意識

—— 「清掃活動、自然保護などの環境保全活動」が43%

Q9

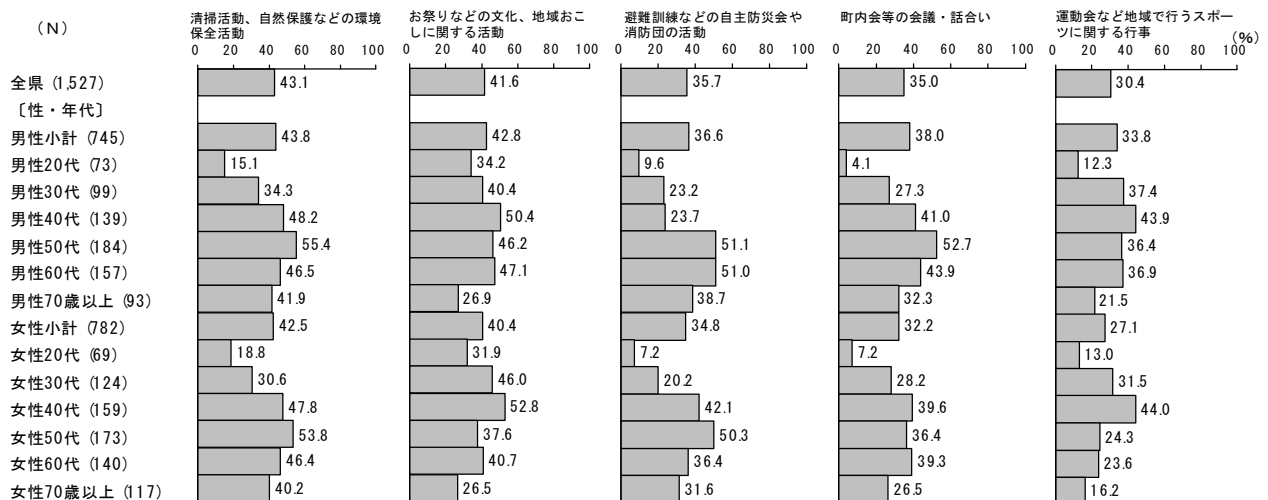
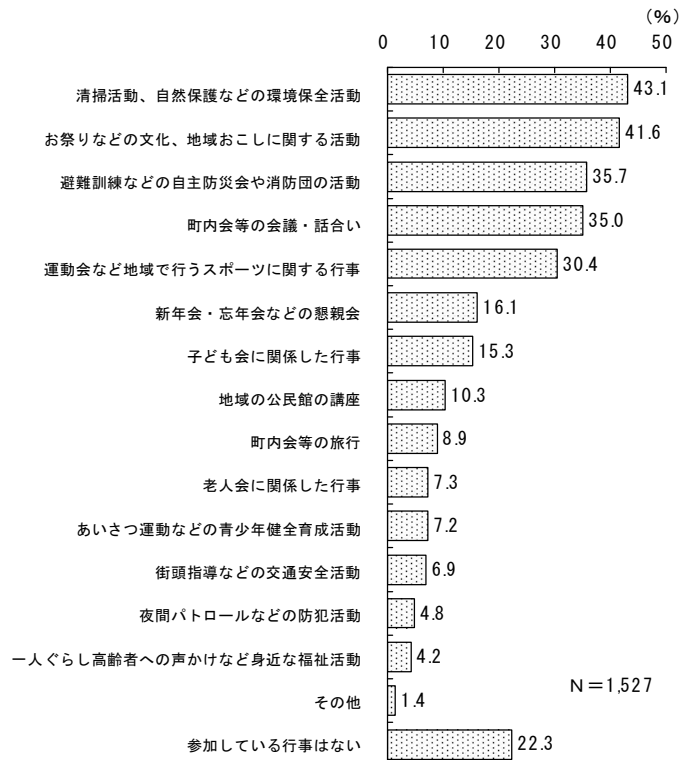
〔回答票 10〕 地域活動への参加状況についてお聞きします。あなたは地域のどのような行事に参加していますか。この中からいくつでもあげてください。(M.A.)

## 全 体

- 「清掃活動、自然保護などの環境保全活動」が43%で最も高くなっている。以下、「お祭りなどの文化、地域おこしに関する活動」、「避難訓練などの自主防災会や消防団の活動」、「町内会等の会議・話し合い」、「運動会など地域で行うスポーツに関する行事」の順となっている。

## 性・年代別

- 第1位の「清掃活動、自然保護などの環境保全活動」は、最も高いのは男女共に50代となっている。一方、最も低いのは、男女共に20代となっており、年代による参加状況の違いが伺える結果となった。「避難訓練などの自主防災会や消防団の活動」や「町内会等の会議・話し合い」は他の項目と比較すると年代による違いが大きい、「お祭りなどの文化、地域おこしに関する活動」は年代による大きな違いはみられない。



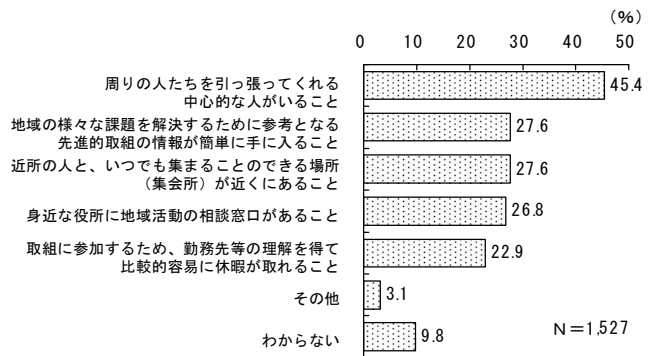
# 地域活動に自発的に参加したくなるための条件

——「周りの人たちが引っ張ってくれる中心的な人がいること」が45%

**Q10** [回答票 11] あなたが、地域活動に自発的に参加したくなるための条件として何が必要と考えますか。この中からいくつでもあげてください。(M.A.)

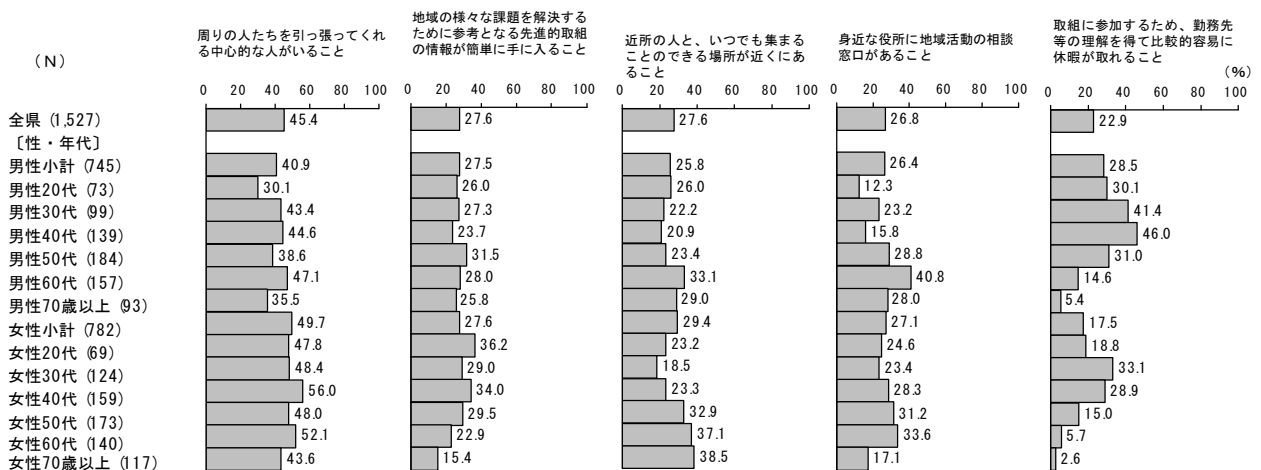
## 全 体

●「周りの人たちが引っ張ってくれる中心的な人がいること」が45%で最も高くなっている。次いで「地域の様々な課題を解決するために参考となる先進的取組の情報が簡単に手に入ること」と「近所の人と、いつでも集まることのできる場所(集会所)が近くにあること」が28%となっている。



## 性・年代別

●「取組に参加するため、勤務先等の理解を得て比較的容易に休暇が取れること」が、男性の30代、40代で特に高い。一方、「周りの人たちが引っ張ってくれる中心的な人がいること」が男性と比較して女性の各年代で高くなっている。



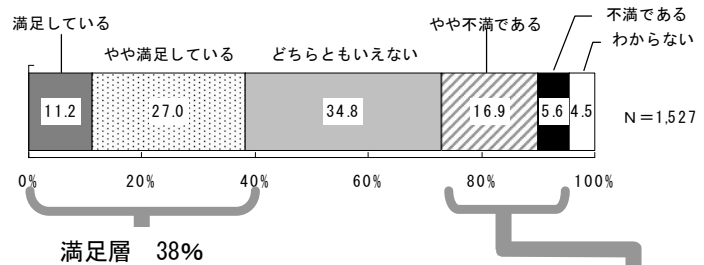
# 県民のくらし満足度についての意識

——県民のくらし満足度は、満足している人が「健康長寿」で38%  
不満足である人が「自然環境」で41%

**Q11** [回答票 12] 次の生活分野における現在の生活満足度について、お答えください。  
**SQ1** 満足している主な理由をこの中から2つまでお選びください。(M.A.)  
**SQ2** 不満足である主な理由をこの中から2つまでお選びください。(M.A.)

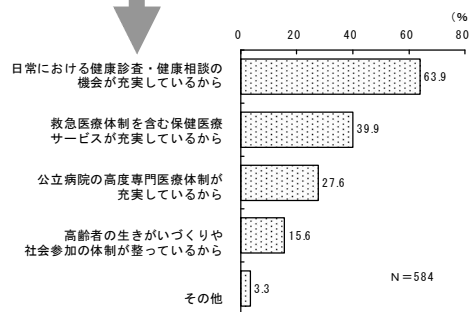
## 健康長寿

●全体で見ると、「満足している」、「やや満足している」を合わせた“満足層”は、38%となっている。一方、「やや不満である」、「不満である」を合わせた“不満層”は、23%となっている。“満足層”が“不満層”を15ポイント上回る結果となった。



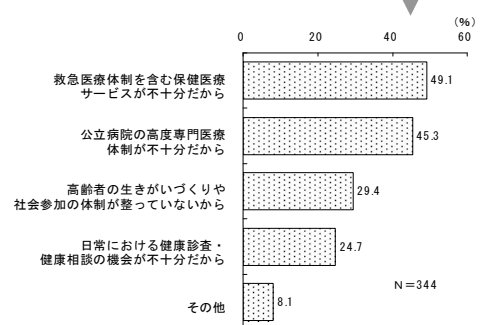
## SQ1 満足している理由

●第1位は、「日常における健康診査・健康相談の機会が充実しているから」が64%と特になくなっている。



## SQ2 不満である理由

●「救急医療体制を含む保健医療サービスが不十分だから」が49%、「公立病院の高度専門医療体制が不十分だから」が45%と高くなっている。



## 地域のくらし満足度

- 全体で見ると、「満足している」、「やや満足している」を合わせた“満足層”は、24%となっている。一方、「やや不満である」、「不満である」を合わせた“不満層”は、28%となっている。“不満層”が“満足層”を4ポイント上回る結果となった。

### SQ1 満足している理由

- 「介護保険サービスが充実しているから」が51%、「地域における子育て支援・保育サービスが充実しているから」が43%と高くなっている。

### SQ2 不満である理由

- 「地域における子育て支援・保育サービスが不十分だから」、「障害のある人への支援策が不十分だから」、「介護保険サービスが不十分だから」が共に40%と高く、その差はほとんどみられない。

## 人づくり

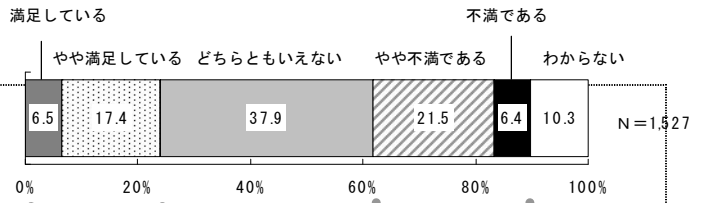
- 全体で見ると、「満足している」、「やや満足している」を合わせた“満足層”は、16%となっている。一方、「やや不満である」、「不満である」を合わせた“不満層”は、36%となっている。“不満層”が“満足層”を20ポイント上回る結果となった。

### SQ1 満足している理由

- 「学校・家庭・地域の連携により、青少年の健全育成が進んでいるから」が62%で最も高く、次いで「学校教育により児童生徒の学力向上が期待できるから」が45%となっている。

### SQ2 不満である理由

- 「学校・家庭・地域の連携により、青少年の健全育成が進んでいないから」が64%で最も高く、次いで「学校教育により児童生徒の学力向上が期待できるから」が53%となっている。



満足層 24%

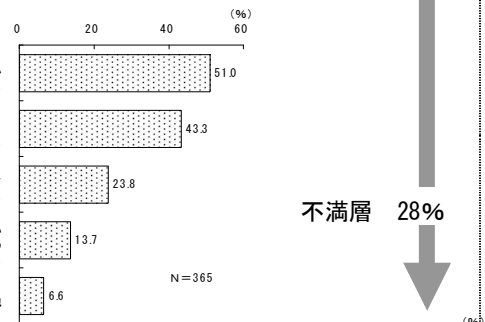
介護保険サービスが充実しているから

地域における子育て支援・保育サービスが充実しているから

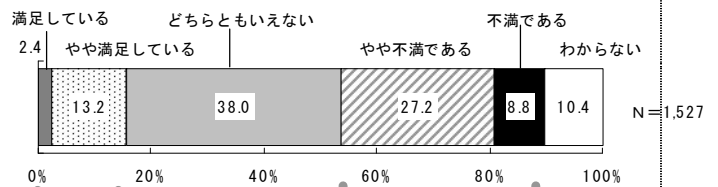
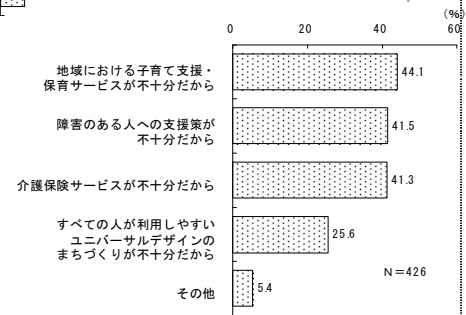
障害のある人への支援策が充実しているから

すべての人が利用しやすいユニバーサルデザインのまちづくりが進んでいるから

その他



不満層 28%



満足層 16%

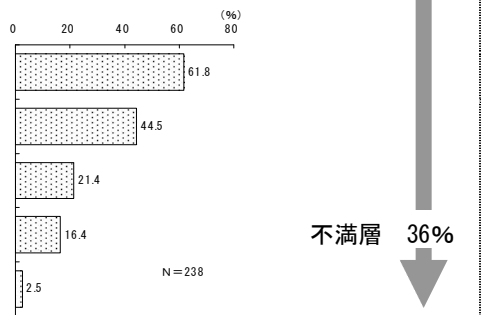
学校・家庭・地域の連携により、青少年の健全育成が進んでいるから

学校教育により児童生徒の学力向上が期待できるから

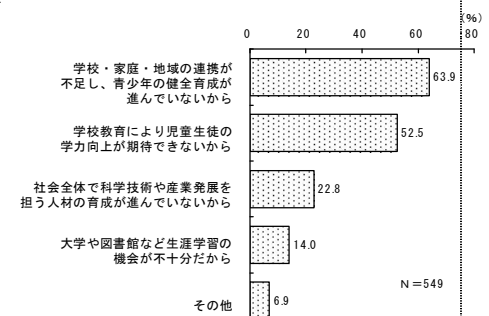
大学や図書館など生涯学習の機会が充実しているから

社会全体で科学技術や産業発展を担う人材の育成が進んでいるから

その他



不満層 36%



## 安心・安全

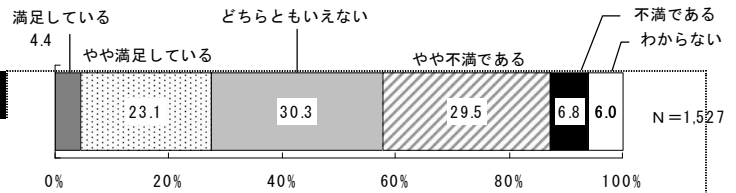
- 全体で見ると、「満足している」、「やや満足している」を合わせた“満足層”は、28%となっている。一方、「やや不満である」、「不満である」を合わせた“不満層”は、36%となっている。“不満層”が“満足層”を8ポイント上回る結果となった。

### SQ1 満足している理由

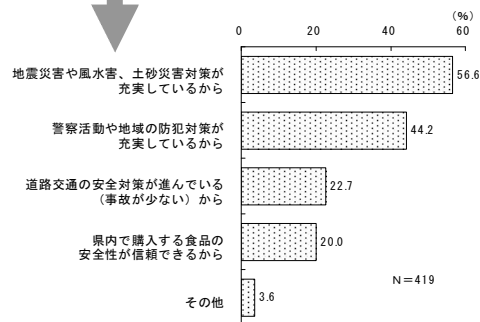
- 「地震災害や風水害、土砂災害対策が充実しているから」が57%と最も高く、次いで「警察活動や地域の防犯対策が充実しているから」が44%となっている。

### SQ2 不満である理由

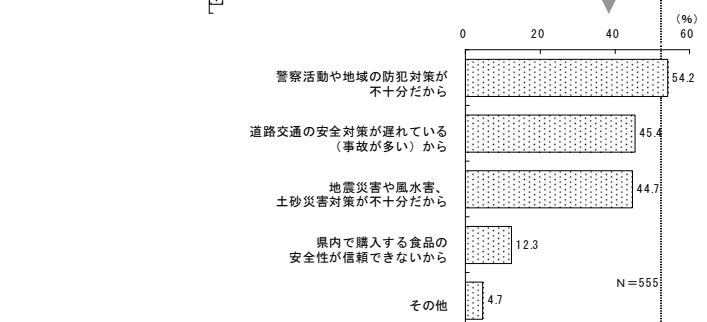
- 「警察活動や地域の防犯対策が不十分だから」が54%と最も高く、次いで「道路交通の安全対策が遅れているから」、「地震対策や風水害、土砂災害対策が不十分だから」が共に約45%を占めている。



満足層 28%



不満層 36%



## 自然環境

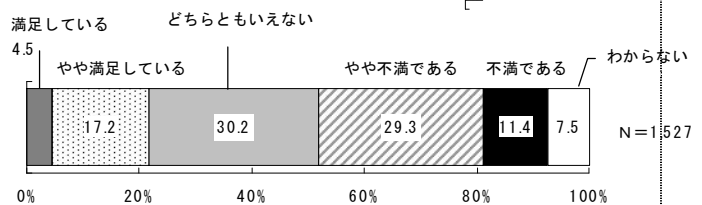
- 全体で見ると、「満足している」、「やや満足している」を合わせた“満足層”は、22%となっている。一方、「やや不満である」、「不満である」を合わせた“不満層”は、41%となっている。“不満層”が“満足層”を19ポイント上回る結果となった。

### SQ1 満足している理由

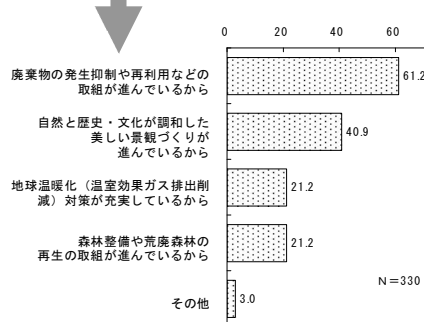
- 「廃棄物の発生抑制や再利用などの取組が進んでいるから」が61%、次いで「自然と歴史・文化が調和した美しい景観づくりが進んでいるから」が41%となっている。

### SQ2 不満である理由

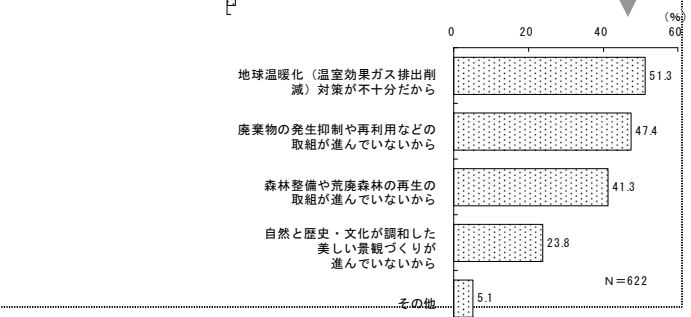
- 「地球温暖化対策が不十分だから」が51%以下、「廃棄物の発生抑制や再利用などの取組が進んでいないから」、「森林整備や荒廃森林の再生の取組が進んでいないから」の順だが、いずれも40%以上を占めている。



満足層 22%



不満層 41%





# 犯罪被害に遭う不安度と種類について

——県内で犯罪被害に遭う不安を感じている人は73%

不安を感じている犯罪の第1位は「空き巣などの侵入窃盗」で64%

Q12

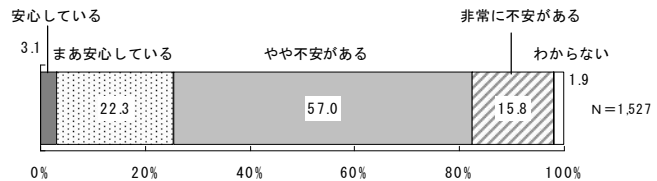
〔回答票 13〕あなたは、あなたやあなたの家族が、県内で犯罪被害に遭うのではないかと不安を、どの程度感じていますか。あてはまるものを1つだけあげてください。

SQ

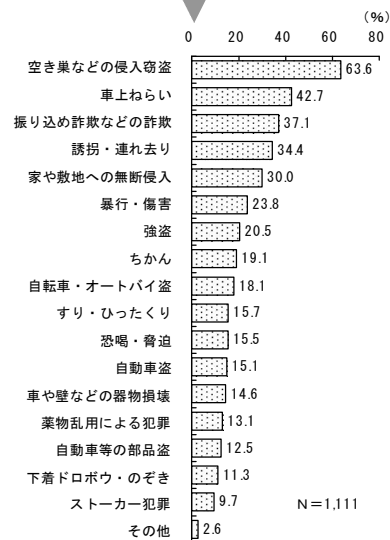
不安を感じている犯罪を、この中からいくつでもあげてください。(M.A.)

## 全 体

- 県内で犯罪被害に遭うのではないかと不安を感じている程度について、「安心している」が3%、「まあ安心している」が22%で、合わせた“安心層”は25%となっている。一方、「やや不安がある」が57%、「非常に不安がある」が16%となっており、県内で犯罪被害に遭うのではないかと感じている“不安層”は73%となっている。



不安層 73%

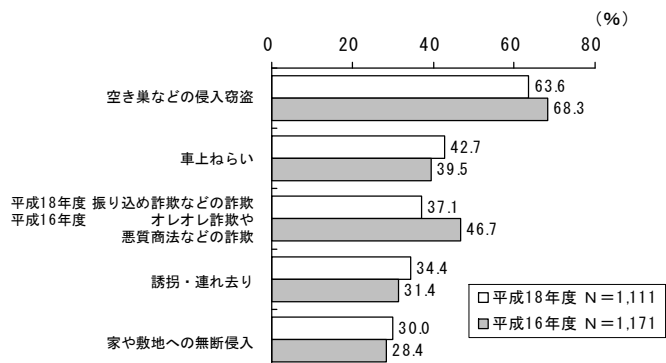


## SQ 不安を感じている犯罪

- “不安層”に対して、不安に感じている犯罪についてたずねたところ、「空き巣などの侵入窃盗」が64%で第1位、以下、「車上ねらい」、「振り込め詐欺などの詐欺」、「誘拐・連れ去り」、「家や敷地への無断侵入」の順になっている。

## 経 年 比 較

- 平成16年度と比較をしてみると、第1位の「空き巣などの侵入窃盗」は64%で、前回と順位の変動はないが、5ポイントの減少となっている。また、「誘拐・連れ去り」の増加（3ポイント）と「振り込め詐欺などの詐欺」の減少（10ポイント）が目立っている。



# 犯罪発生防止の点から見たあなたのまちの状況

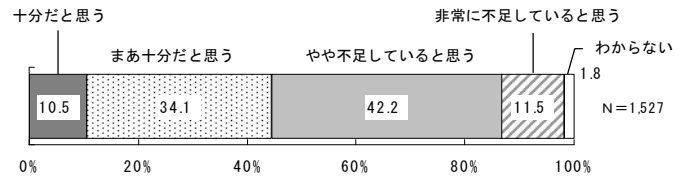
——防犯灯や街灯の設置状況、個人の住宅や商店の建物の防犯体制が「不足していると感じている」人が過半数

Q13

〔回答票 14〕あなたは、犯罪発生防止の点から、あなたのまちをどう思いますか。次にあげる項目についてそれぞれ1つずつお選びください。

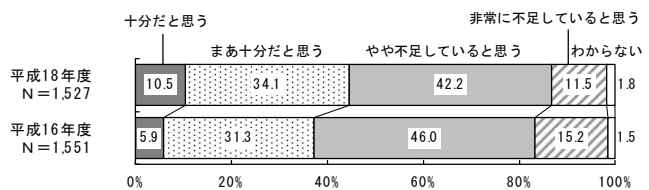
## 防犯灯や街灯の設置状況について

- 全体についてみると、「十分だと思う」が11%、「まあ十分だと思う」が34%で、合わせた“満足層”は45%となった。一方、「やや不足していると思う」が42%、「非常に不足していると思う」が12%で、“不満層”は54%となった。



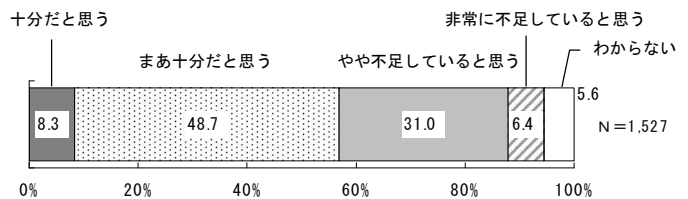
## 経年比較

- 平成16年度と比較をしてみると、「十分だと思う」と「まあ十分だと思う」を合わせた“満足層”は、前回の調査よりも7ポイント上昇している。



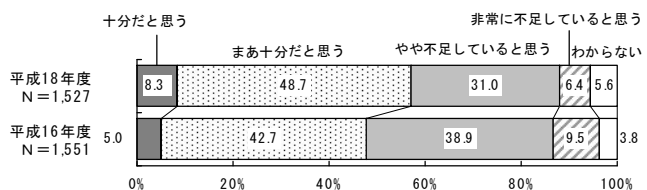
## 公園や道路脇の樹木・植栽の管理による見通しの確保

- 全体についてみると、「十分だと思う」が8%、「まあ十分だと思う」が49%で、“満足層”全体では57%となった。一方、「やや不足していると思う」が31%、「非常に不足していると思う」が6%で、“不満層”は37%となった。



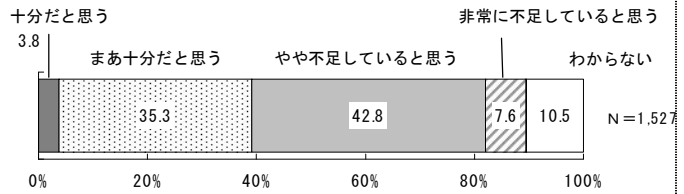
## 経年比較

- 平成16年度と比較をしてみると、「十分だと思う」と「まあ十分だと思う」を合わせた“満足層”は、前回の調査よりも9ポイント上昇している。



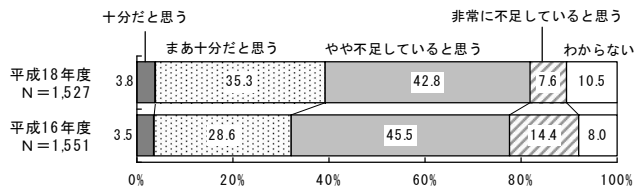
## 個人の住宅や商店の建物の 防犯管理体制

- 全体についてみると、「十分だと思う」が4%、「まあ十分だと思う」が35%で、“満足層”全体では39%となった。一方、「やや不足していると思う」が43%、「非常に不足していると思う」が8%で、“不満層”全体は51%となった。



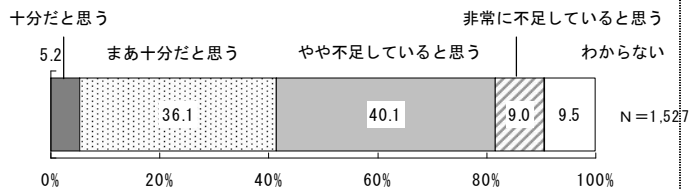
## 経年比較

- 平成16年度と比較をしてみると、「十分だと思う」と「まあ十分だと思う」を合わせた“満足層”は、前回の調査よりも7ポイント上昇している。



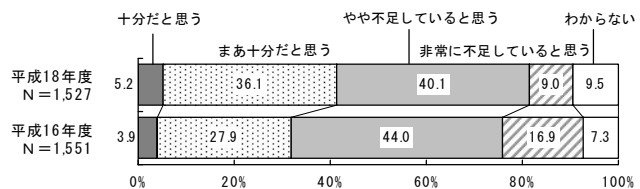
## 地域住民の自主的防犯活動

- 全体についてみると、「十分だと思う」が5%、「まあ十分だと思う」が36%で、“満足層”全体では41%となった。一方、「やや不足していると思う」が40%、「非常に不足していると思う」が9%で、“不満層”全体は49%となった。



## 経年比較

- 平成16年度と比較をしてみると、「十分だと思う」と「まあ十分だと思う」を合わせた“満足層”は、前回の調査よりも10ポイント上昇している。



# 森林の働きに期待すること

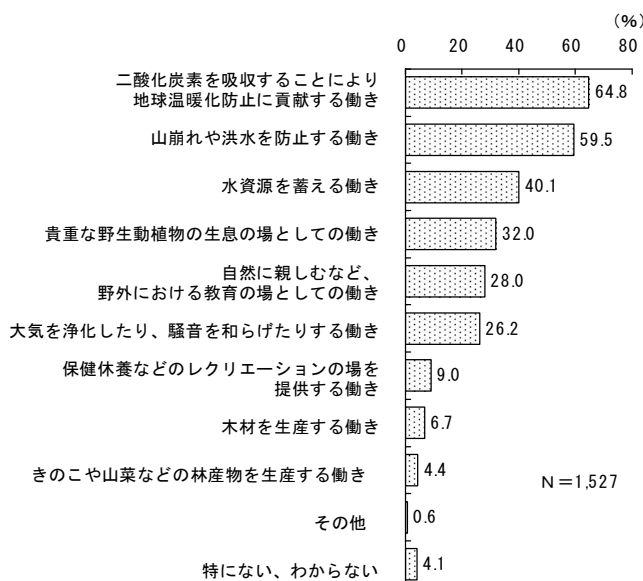
——「二酸化炭素を吸収することにより地球温暖化防止に貢献する働き」65%

Q14

〔回答票 15〕あなたは、森林の働きに何を期待しますか。  
この中から3つまであげてください。(M.A.)

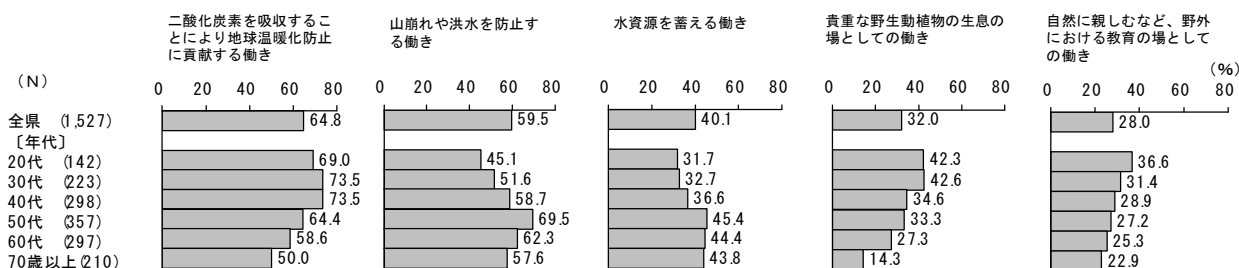
## 全 体

●「二酸化炭素を吸収することにより地球温暖化防止に貢献する働き」が65%で最も高くなっている。以下、「山崩れや洪水を防止する働き」、「水資源を蓄える働き」、「貴重な野生動植物の生息の場としての働き」、「自然に親しむなど、野外における教育の場としての働き」の順になっている。



## 年 代 別

●年代別にみると、「山崩れや洪水を防止する働き」や「水資源を蓄える働き」が50代を中心に高くなっている。「二酸化炭素を吸収することにより地球温暖化防止に貢献する働き」、「貴重な野生動植物の生息の場としての働き」や「自然に親しむなど、野外における教育の場としての働き」は、若い層ほど高くなる傾向にある。



# 森林と県民の共生に対して必要な取組

——「森林でのレジャー活動の際には、  
ごみの持ち帰りなど自分でできる環境保全に努める」64%

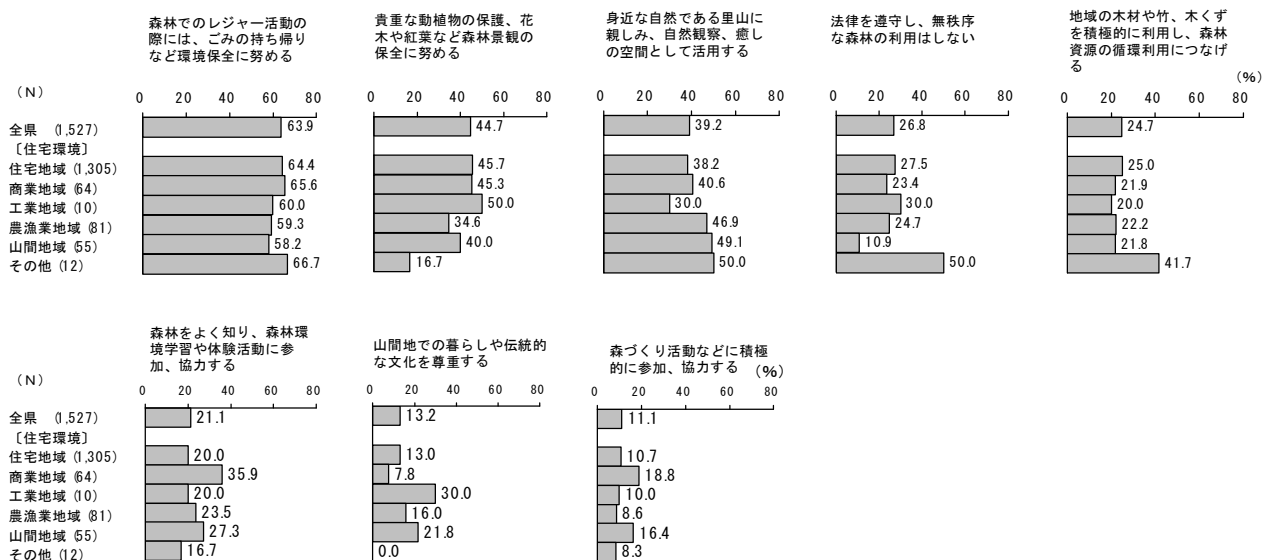
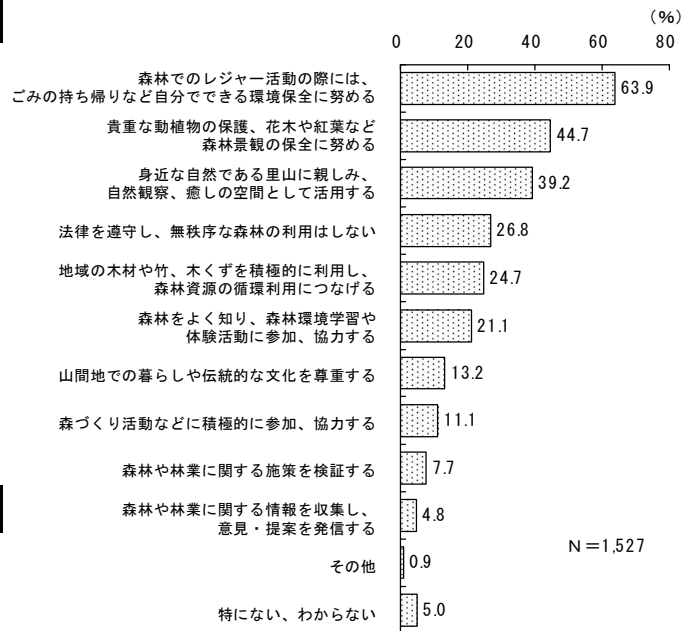
**Q15** [回答票 16] あなたは、森林と県民の共生に対して、どのような取組が必要だと思いますか。この中から3つまであげてください。(M.A.)

## 全 体

●「森林でのレジャー活動の際には、ごみの持ち帰りなど自分でできる環境保全に努める」が64%で最も高くなっている。以下、「貴重な動植物の保護、花木や紅葉など森林景観の保全に努める」、「身近な自然である里山に親しみ、自然観察、癒しの空間として活用する」、「法律を遵守し、無秩序な森林の利用はしない」の順となった。

## 住 宅 環 境 別

●「森林をよく知り、森林環境学習や体験活動に参加、協力する」では、商業地域で36%となっている。「山間地での暮らしや伝統的な文化を尊重する」では、工業地域で30%と他の住宅環境に比べて、高い割合となった。一方、「法律を遵守し、無秩序な森林の利用はしない」は山間地域で11%と他の住宅環境に比べて低い割合となった。

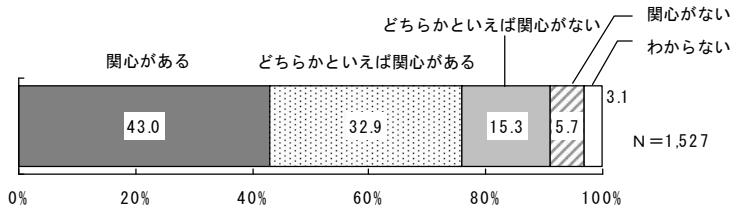


# 県民の食育についての意識 —— 「食育」に関心のある“関心層”は、76%

**Q16** [回答票 17] あなたは「食育」に関心がありますか。この中から 1 つだけお答えください。  
**SQ** あなたが「食育」に関心がある理由は何ですか。この中からいくつでもあげてください。(M.A.)

## 全 体

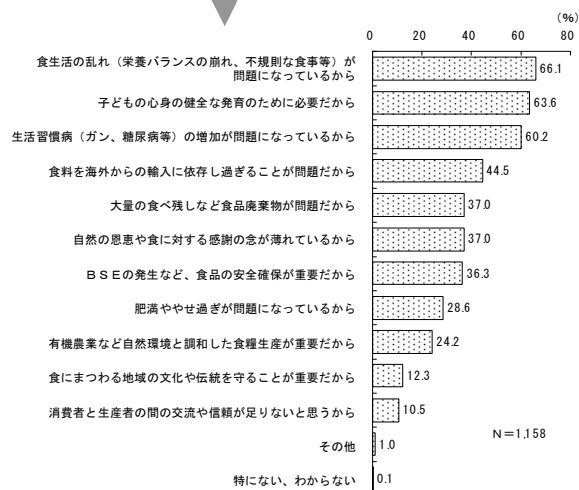
- 「食育」について、「関心がある」人が 43%、「どちらかといえば関心がある」人が 33%と、合わせた“関心層”は、76%となっている。



## SQ 「食育」に関心がある理由

- 「食育」への“関心層”に「食育」に関心のある理由をたずねたところ、「食生活の乱れが問題になっているから」が 66%で最も高くなっている。以下、「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」、「生活習慣病の増加が問題になっているから」、「食料を海外からの輸入に依存し過ぎることが問題だから」、「大量の食べ残しなど食品廃棄物が問題だから」の順となった。

関心層 76%



## 子どもの世代別

- 「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」は、子どものいる世代で高くなっており、最も高いのは小学生の 89%である。「食料を海外からの輸入に依存し過ぎることが問題だから」では、子どものいない層が 58%と、高めの割合となっている。

